

第4回「送配電コンプライアンス委員会」議事要旨

1. 日 時

2023年4月12日（水）13:30～15:00

2. 委 員

一般送配電事業者（10社）の社長、送配電網協議会事務局長、
外部より招聘した弁護士および公認会計士（2名）

3. 議事要旨

（1）システム分割方法等の検討

- ・ 一般送配電事業者各社において、非公開情報の管理の用に供するシステムのうち顧客情報を取り扱うシステムを特定した上で、それぞれのシステムの物理分割への移行時期と理由、また移行までの間に行う運用対策等について、早急に整理を行うこととした。
- ・ 災害時等における停電復旧の対応においては、各社において人員が不足するケースもあるため、他の事業者に応援を依頼したい業務の詳細を整理し、その実施方法について、具体的検討を進めていくこととした。

（2）人為的要因をいかに排除するか、行為規制遵守にかかる社内体制

- ・ 前回委員会で、システム監査の強化を議論するとともに、実効性のある体制構築に向けた取組として、業界内他社相互チェックを実施していくことを確認した点について、今後、監査項目・セルフチェック項目を新たに設定する取組みを進めていくとともに、業界内他社相互チェックで判明した改善事項への対応結果を業界大で確認し、共有していくこととした。
- ・ なお、業界内他社相互チェックにかかる実施内容や、実施方法、頻度等について、今後、具体的検討を進めていくこととした。

（3）各社の取組内容の比較（点検頻度、好事例等）

- ・ 本事案においては、当然やっておかなければならない内部統制や、ITのコントロールができていなかったことが大きな問題であり、業界大で、IT統制に加え人間系の統制も含めたリスク選好とリスク・トレランスに関する方針について確り合意した上で、各社において内部統制の仕組みや強度（種類、範囲、頻度等）を検討し体制を構築することが必要であるとの意見があり、その認識を共有した。

- ・ システムのアクセスログの解析については、チェック頻度や解析期間を会社間で横比較することに加えて、今後、実施内容に係る考え方を確認・共有した上で、取組内容に過不足がないか引き続き議論することとした。また、各社の再発防止に向けた取組みの好事例についても、共有化を図り、更なる改善に繋げていくこととした。
- ・ 情報漏洩ゼロを目指す上で、全てのシステムの膨大なアクセスログを取得し解析することは、現状において課題があるため、ログ解析等のシステム面の対策と人間系の運用を組み合わせた仕組みについて、具体的な対策の検討を引き続き進めることとした。

以 上